

原 著

肉 用 鶏 の 筋 胃 及 び 回 腸 重 複 囊 胞

阿部増美 茂木洋子 渡邊一生 齊藤伸明

高橋 史 清宮幸男[†]

(一社)岩手県獣医師会食鳥検査センター (〒020-0851 盛岡市向中野 5-28-27)

(2025 年 10 月 7 日受付・2026 年 1 月 13 日受理・2026 年 7 月 15 日公開)



本文はこちら
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jvma/79/7/79_e95/_article/-char/ja

要 約

各 1 例の筋胃，回腸，食道及び十二指腸並びに 4 例の腺胃に密着した肉用鶏 8 例の消化管重複嚢胞（本症）を検索した。剖検により 7 例の嚢胞が各消化管の背側に位置していた。組織学的に，各嚢胞の内張り上皮が形成する絨毛状突起の背丈の径，固有層の腺様組織数及び平滑筋層の厚さを測定した。筋胃重複嚢胞は背丈の高い絨毛状突起及び多数の腺様組織を有し，内腔に層紋状に配列する好酸性物質を含んだ。回腸重複嚢胞の絨毛状突起の背丈及び腺様組織数はともに中程度であった。両嚢胞の平滑筋層はともに中程度に発達していた。得られた成績から，前嚢胞は筋胃，後嚢胞は腸に類似する粘膜による内張りが示唆された。両嚢胞は鶏の初報告である。本症の正確な病理発生は不明であるが，大多数の検索嚢胞が消化管の背側に位置した事実から，人例の脊索分離障害説が有力視された。

——キーワード：肉用鶏，消化管重複嚢胞，回腸，筋胃。

----- 日獣会誌 79, e95～e103 (2026)